

Propelling

Issue 3



Nakashima People Vol.3

岡田 善久 ナカシマプロペラ プロペラ設計部 部長

Propelling は、陽の
あたらぬ船底でその
一生を送るプロペラが
秘めるメッセージに
光をあてて、世界の船
そして船とともにある
世界を未来へと一歩
進める岡山発・日本発
のかわらばん

オリジナルを生み出したいという強いパッションが、常に岡田氏を突き動かしてきた。学生時代は小説や絵の創作活動にいそしみ、社会人サッカーのリーグを立ち上げたこともある。近頃は、ボルダリングの壁と向き合い、自分の感覚だけを頼りに「頂き」を究めることにはまっている。そして、いま一番の夢は、自分の手で理想の家を作ること……フランク・ロイド・ライトなどの独創的な建築に刺激を受けたのだと言う。

そうした岡田氏の、枠を飛び出した自由な発想が、ナカシマプロペラのイノベーションには欠かせない。設計・開発の現場から、ものづくりを超越した同社のビジョンの策定にも携わり、その実現を牽引するキーパーソンの一人である氏に話を聞いた。

Q ナカシマプロペラで働く魅力とは？

A 大学で、キャビテーション研究の第一人者のもとで学んだことから、ナカシマにご縁をいただきましたが、入社当時はプロペラにも船にも、特別なこだわりはありませんでした。

それにも関わらず20年以上この仕事を続けているのは、社員の自主性を尊重する企業風土ゆえ、かなり自由に開発を任せられ、また、そうして生まれた新製品を、世界の顧客に自ら売り込みに行くところまで、トータルなプロデュースに携わることができるからだと思っています。その中で「世界が近い」と感じられることも、この業界の醍醐味、ナカシマでの仕事の大きな魅力かもしれません。

世界が近い——
それが醍醐味

岡田 善久



Q 仕事の中で大切にしていることは？

A 職場では、あえて「自己満足する」ことを心がけています。自分が楽しんでいないと、周りも心地よくないはずですから。

でも本当に満足することはないし、したくない。嬉しい、楽しいと感じるのは一瞬で、あとは苦しいくらいが丁度いい、と考えています。

この業界は、ヨーロッパ主導のルールメイキングに動向を左右されている面があって、いわば「アウェイ」の試合を強いられることが多い。でも、そうした不利な状況で勝負するのも悪くない。どんな環境でも、結果を出せる自分でありたいから、試練は「ご馳走」なんです。

Q ナカシマが選ばれる理由とは？

A ナカシマは、いまや世界でも数少ないプロペラの専門メーカーの一つ、特化しているがゆえに逃げ場がない。だから、品質だけでなく、メンテナンスなどサービス全体にわたって本気度が違います。そこで研ぎすまされてきた、ものづくりを超えた力に、期待や信頼が集まるようになっている。

そしてこれからは、プロペラの一品受注にこだわってきたからこそ磨かれた技や心意気、蓄積しえた膨大なデータが、船の推進性能の最適化という新たな分野での、ナカシマの「究極の」専門性の中に生きることになります。

Q 岡田さんが思い描くナカシマの行く先とは？

A ナカシマのビジョンの第一ステージ、省エネ付加物など新たな製品の開発は僕の専門分野ですが、すでにほぼメドがつきつつあります。次のステージは、前述した船の推進性能最適化のサービス構築・ビジネス化で、これは就航データ解析など新たな技術の活用を伴い、容易ではありませんが、実現が見え始めている。

でも、本当の勝負はその先だと考えているんです——そこに広がる未知の領域で新しい船と海の世界を創り出していく第3のステージにこそ、楽しみが待っていると。■

ナカシマの美意識

薔薇と美術品に囲まれて

本社の外壁を薔薇が這い、初夏には道行く人の目を楽しませる。社屋に足を踏み入れば、数々の絵画や彫刻が壁際を彩る。

「美」を求めるナカシマの心は、100トンを超えるプロペラの表面に100分の1ミリの乱れを許さない、究極の品質へのこだわりに通じる。



シリーズ寄稿：日本ならではのイノベーション 水光る森のゆくえ

清流・四万十川源流域の里、高知県・橋原（ゆすはら）。伝承によれば、藤原摂関家に生まれた津野経高がこの地に至り、高台から森の中に陽光を反射する沼を見つけて、その水を引いて開墾を始めたという。以来 1100 年あまり、辺境にありながら独自の「雅」な文化を、黙々と紡いできた。

とはいえ決して知名度は高くないこの橋原が、民俗学者・宮本常一、作家・司馬遼太郎、宗教学者・山折哲雄、建築家・隈研吾はじめ、名だたる賢人たちの心をとらえて放さない。

この里は、いわば四国の知られざる霊場——「日本人らしさ」を追究し、その普遍的な価値を解き放つことで新たな未来を築こうとする者たちが、おのずと引き寄せられ、日本文化の源流を見出す「道標」の地なのであった。

橋原には、いにしへの智慧に満ちた、かつての日本人の有りようの「記憶」を蘇らせるかのような場所が、いくつも遺っている。

例えば、百年あまり森と共に時を刻んできた水路。静かに語りかけるように流れる水に導かれて歩みを進めると、谷底から川のせせらぎ、頭上から葉ずれの音と鳥の声、そして、水辺を覆う苔の緑と青の点描画、時に風が運ぶ甘やかな香りにいざなわれ、いつしか、自らもその大きな有機体の中に溶け込んでしまう……「人工」の水路が、辺りの自然に働きかけ、自然と人が一体となった循環を生み出し、情緒溢れる風景をももたらして、独自の「自然界」をつくりだしているのだ。

それは、自然を支配しようとする人間中心的なものではなく、自然の中に居場所をいただく日本人ならではの「人工」。人の作ったものが、母なる自

然と調和し、それを支え、その中に息づく。

森の水路が教えてくれるのは、多彩、豊穡にして無常なる自然を持つ日本に住まう民がつくり得た、日本らしい文明の原石のありかに他ならない。

だが、明治維新以降、「文明開化」の名のもと西欧文明を積極的に導入し、富国強兵、さらには経済成長に邁進してきた日本人は、そうした日本独自の文明を、その基盤となる世界観や美意識もろとも手放してしまおうとしている。

橋原においてさえ、自然と人の乖離は進み、前述の水路も、住民の農業離れとともに水田が消えつつあるいま、その維持に課題を抱えている。

この里で水と森と人を包摂した循環が朽ち、水路が単なる人工物と化してしまうようなことがあれば、それは、日本だけでなく人類が貴重な道標をまたひとつ失うことを意味する。

近年わが国で相次ぐ天変地異が、日本人の自然観をにわかに呼び覚ましつつあるのか、例えば、津波や洪水の際に水に浮かぶ電気自動車など、自然の力に立ち向かう代わりに、それをいなしってしまう日本らしい「人工」・イノベーションが芽吹く兆しも見える。

自然に対する独自の「交渉力」と、世界屈指の技術力を結びつけ、昔ながらの最先端なソリューションを打ち出して、壁にぶち当たっている人類を日本は救えるだろうか。

橋原といえば、坂本龍馬ら幕末の志士が、峠を越え、日本の夜明けに向けて旅立った地でもある。人類の行く末を憂える現代の志士たちが、日本文化に眠る宝を携えて「峠」を踏み越えたとき、その先に日本発の新しい「文明開化」が始まる、そんな未来を夢想している。■

文：八百万ING（やおよろじんぐ）

NAKASHIMA PROPELLER

売り手よし、買い手よし、世界よし

日本の造船業の一大中心地・瀬戸内地方に本社を構えるナカシマプロペラは、船舶用プロペラでトップレベルのシェアを誇る船舶推進機器メーカーです。

漁船用プロペラを造る鋳物工場に始まり、つねに安心・安全・快適をお届けするために、「プロペラにできること」を追求し続けてきたその歴史は、2026年に創業100周年を迎えます。

推進機能の中心を担うプロペラから船全体を見通すと、その最適姿が見えてくる——そんな新しい視点で、ナカシマは船のライフサイクルに寄り添うトータルなサービスを提供し、環境負荷の低減にもつながる低燃費化の実現など、業界を越えて世界に貢献していきます。

■ ナカシマブランドとは？

船の一生に寄り添い、“推進性能”を最適化するスペシャリスト

日本品質を生む設計力・製造力

高性能コンピューター（5000コア大規模プロセッサ）が、100万基にのぼる世界屈指の生産実績の中で蓄積された膨大なデータをもとにはじきだす、設計図。最先端のテクノロジーと熟練した職人技を併せ持つナカシマ独自の製造力が、その設計形状を忠実に再現、高効率・低振動・低騒音の日本品質を提供しています。

一品受注生産 “100の船があれば100通りのプロペラがある”

プロペラは、推進性能の最適化の要。メーカー本位の効率化を排して、一品受注生産にこだわり、一貫生産体制のもと、あらゆる船に対して「その一隻」に最適なプロペラを設計・製造しています。

最新鋭機器の利用を高度化

NC加工では独自のスマートテクノロジーにより、高効率プロペラの複雑な三次元曲面の形状定義も可能に。前・後縁部のエッジ加工など、加工機による翼面加工領域を広げて、特殊な職人技が必要なプロセスを簡素化し、迅速かつバラツキのない製造を実現しています。

究極の滑らかさ

人間の手は、物体表面のなめらかさを判定する理想の検査装置です。最高の訓練を受けたナカシマの職人は、翼表面をゆっくりと撫でるだけで、1/100mmの乱れを感知する「匠の技」を身に付けています。最新のCFD計算でも正確な予測がむずかしい微妙なキャビテーションや鳴音の発生につながる不具合も決して見逃しません。

どんな時も、どんな場所でも

プロペラ損傷時には、世界的ネットワークを活かして、修理エンジニアの派遣など迅速に対応。燃費状態や航路、経年劣化など諸条件を考慮し、エッジカットや省エネ研磨、レトロフィットの提案なども行い、船の「一生」を通じてきめ細かくサポートします。

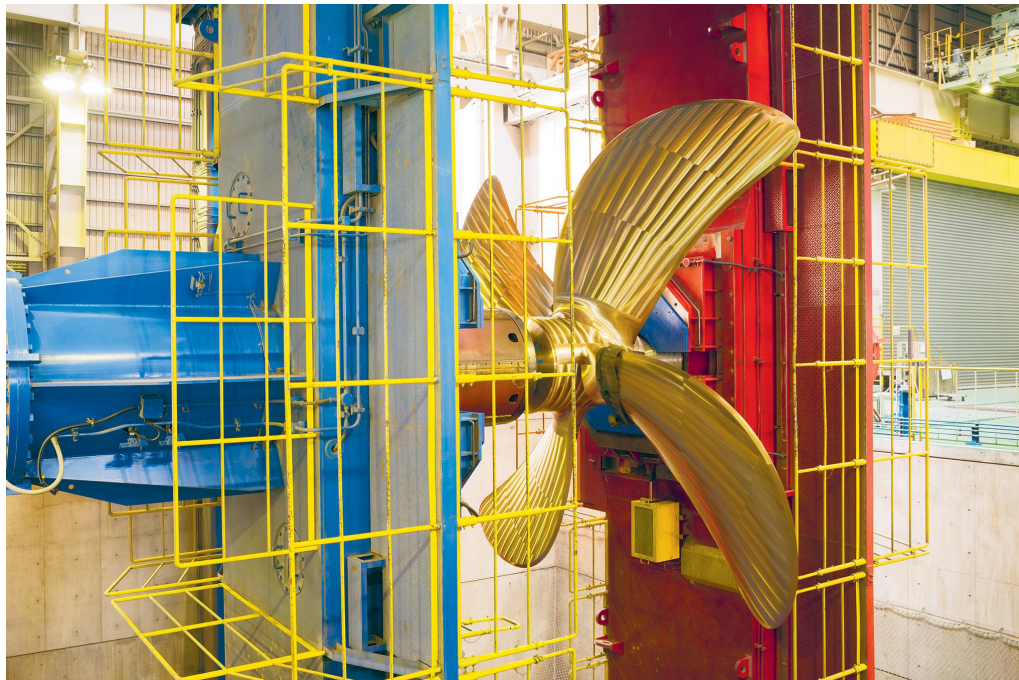
■ サービスについて

船舶用プロペラ分野・推進システム分野におけるFPP、CPP、スラスト、船尾まわり省エネ付加物、新素材（CFRP）プロペラのデザインと製造

損傷プロペラの補修、エッジカット（エッジ修正含む）、省エネ研磨、実運航・就航後の推進機器のサポート、低燃費船を実現する推進性能の最適化など

対応船種：メガコンテナ船、VLCC、VLOC、VLGC、LNG/LPG船、PCC、客船、作業船、内航船、調査船、バトロール船

対応船級：全主要船級（アイスクラス対応可）



■ 展示会情報

SMM HAMBURG [ドイツ]…2016年9月6日～9日
METS TRADE [オランダ]…2016年11月15日～17日
SEA ASIA [シンガポール]…2017年4月25日～27日
BARI-SHIP [日本]…2017年5月25日～27日

ナカシマプロペラ 株式会社

〒709-0625 岡山県岡山市東区上道北方 688-1
086-279-5111

npcwebmaster@nakashima.co.jp
<http://www.nakashima.co.jp>

Japan・Singapore・Vietnam・Philippines
Korea・Taiwan・China・U.S.A.・Brazil・Turkey・U.K.・Namibia・UAE

Propelling 第3号 2016年9月1日

企画・制作 株式会社八百万 I NGカンパニー

写真 富岡誠[P1]、片岡杏子[P2]、太田拓実[P4]

Copyright 2016 NAKASHIMA PROPELLER Co., Ltd. All Rights Reserved.